

令和3年度第1回愛知県環境教育等推進協議会会議録

1 日時

令和3年9月16日（木）午前10時から午前11時50分まで

2 場所

愛知県三の丸庁舎 地下1階 B101 会議室

3 出席者

委員15名（うちオンライン出席8名）

4 傍聴人

なし

5 会議の概要

（1）開会

（2）あいさつ

岡田委員

（3）会長等の選任について

千頭委員が会長に選出され、大鹿委員が会長代理に指名された。

（4）議事

ア 愛知県環境学習等行動計画2030の推進について

- ・各主体の環境学習等に関する取組状況について
事務局から資料1及び資料2-1について説明。
各委員から資料2-2～2-5について説明。
- ・計画の進捗状況の評価方法について
事務局から資料3について説明。

イ その他

- ・特になし

【質疑応答・要旨】

（新海委員）

資料3の評価シートは、プログラムの実施内容、実施結果等が分かるようになっており、さらに、アンケート結果を踏まえた成果と課題が記載され次に目指すところが可視化されているため、昨年度よりも良くなったと思う。

(服部委員)

今、感じていることは、環境教育の担い手がなかなか育ってこないということ。取り組みを通じて人材がどれだけ育ってきたかということ、将来的には評価シートに記載してもいいかと思う。

高校や大学等での環境教育の取り組みが、将来を支える人材育成につながっていくと、行動計画 2030 の先が見えてくると思う。

(篠田委員)

私を含めて現場の指導者が高齢化している。次世代に託すため、高校生・大学生等に働きかけをしているが、学業や就職活動等で難しい面もある。学生時代に種まきをし、社会人になり余裕ができた時にしっかり教えた方が有効かとも思う。持続可能な社会を支える行動する人づくりのためのすばらしい計画ができて、それを支える人材の育成の部分が少し遅れていると感じる。

(伊藤委員)

様々な取り組みを評価していくのであれば、何が有用性のある取り組みなのか、ある程度精査していく必要があるかと感じている。その中で、自然と触れ合う原体験を通じて、感受性の高い子供たちの世代に働きかけることがとても重要である。

また、コロナ禍でキャンプやグランピングが流行し、その結果として自然体験が増えている状況においては、キャンプ等と環境教育の連携という視点も大事なかもしれない。子供たちの教育・原体験と、大人への自然との関わり方・礼儀の両方について教えていくことが必要だと思う。

(大鹿委員)

県から各事業の紹介があったが、知らなければ誰も関わらないので、より多くの人に周知していく必要がある。

また、若者を育てていく必要がある。新しい教育課程になり環境教育がやりやすくなったので、普段の授業で取り組みやすいものを継続して実施していく必要がある。県の環境学習の事業も、本来、幼稚園から大学までつながっているが、子供たちはそれぞれを別物だと思っている。各年代での学びがつながっていることを示すことができればいいと思う。

(松尾委員)

幼児教育では、子供たちがいかに自然と触れ合うかが大切である。

今、全国的に、日常的に子供たちが自然の中で遊べるように園庭を見直そうという動きがある。子供たちが毎日の生活の中で体験を重ねることが大切だと思う。

また、動物園など、人が大勢集まるところに環境学習施設等を設置するよう

な取り組みがあってもいいのではないか。

(新海委員)

長く環境教育に関わっているが、担い手を育てるとするのは非常に難しい。2030年以降に向けて新しい事業の検討を進める必要があるのではないか。次の目指すべき社会に対応するための環境学習のあり方を議論する時期に来ているので、必要とされる人材を念頭に置き、事業の見直しを進めていければよいと思う。

(千頭会長)

今の評価シートにあるような体系的なねらいがあり学習者の状況から成果を把握していくという事業以外に、次の段階として、新しい気づきを引き出すような事業もあっていいと思う。

事業の継続性や実施に当たっての工夫内容を的確に評価するために、評価シートの成果と課題のところで、学習者の変容から見た成果と課題と、それ以外の主催者側から見た振り返りによる評価を分けて記載できると、よりよくなると思う。

(山本委員)

社会教育においても、担い手や事業の継続というのは問題になっている。今、とてもいい事業を実施していても、5年後は実施していないということがよくある。この評価シートにも、今後の事業の継続や展開等について記載できればよいと思う。

(小島委員 (代理))

子供たちへの働きかけが大切であり、子供たちが当事者意識を持つことで自ら考えて取り組むという意欲につながると思う。このような取り組み等について、学校教育の現場に近いところにいる者として、しっかりと周知、発信できるといい。

また、評価シートは、ねらいと評価が次につながっていくものとなっており、参考になる。

(千頭会長)

評価シートについては、資料3のとおりでよいとの評価をいただいた。大学、NPO、企業等の各主体が、自分たちの活動を振り返る際にこのシートを活用していただければいいと思う。

行動計画2030は中間年を迎えようとしており、必要があれば見直すことになる。2030年以降を見据え、どのように計画を見直していくかという議論も進めていけるとよい。

(岡田委員)

各世代に様々なきっかけづくりを与えるための事業を、今後も幅広く展開したいと思う。また、行動計画 2030 の今後の展開については、意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

(篠崎委員)

武豊町での環境に関する施策を進めていくために、協議会での議論を参考にしたい。

(5) 閉会